

# 私はどっち？

## ～分科会方式 or プロジェクトチーム方式～

---

### 分科会方式がいい理由

- ・得意分野やメールチェック頻度まで分かり合えたメンバーだと動きやすい。
- ・蓄積があり、プロジェクトに責任が持てる。新しい人にも説明できる。  
分科会の移動を一回（初回）のみ認める
- ・今までの仲間間で、意見・考えを出しやすい。今まで行ってきた活動・知識をさらに活かせる。
- ・討議内容の継続性・発展性の確保が容易ではないか。具体化する際のアイデアが出やすい。  
（弱点）多様性・革新性に欠ける これを補う方策が必要
- ・今までの開催状況を見ている、気軽に参加できてよいと思う。それなりの課題を与えていけばよい。
- ・今までの蓄積が生かして機動的。
- ・プロジェクト方式にしても、たぶん今までの分科会のメンバーが集まる気がする。それは、今まで進めてきたことに対する責任と思う。
- ・分科会毎の頭数は確保できる（ムラがでにくい）。他の分科会のメンバーが、希望の分科会に参加できるようにしたら。頭数がそろえば、いずれのプロジェクトもある程度のレベルは確保できる。希望しないから不必要と考えているわけではない。希望者が少なくても、重要なものもあるのでは。そういうプロジェクトには、ある程度の人数が必要では。
- ・重点プロジェクトの内容がよくわかる。新規の人については、分科会で第1段階の説明を行う。全体会の位置づけをはっきりさせてから、プロジェクトチームを立ち上げた方がよいと思う。

### 分科会方式がイヤな理由

- ・同じメンバーなので、議論が空転しはじめている。
- ・現分科会メンバーが閉鎖的になる。  
プロジェクトを統合できない。どうみても一つにまとめた方が良いプロジェクトがある。
- ・固定された昨年からのグループには、独特の雰囲気があります！
- ・新しい人が入りづらい。
- ・将来的な実行体制として結びつきづらい。
- ・現状から、今後の発展が望めない。

### 重点プロジェクト方式がいい理由

- ・プロジェクト方式+全体会で良い。それぞれの思いがあって、プロジェクトが生まれたので、それは分科会でなくても引き継がれるはず。思いの分だけは進むはず。100%とは限らないけど。
- ・プロジェクト方式にしても、恐らくメンバーはそれほど変わらないことが予想されます。そして、新メンバーも募りやすいと思います。

- ・新しい視点で探究できる。
- ・プロジェクト方式が良いと思います。新しい人が入りやすいということだけでは、なかなか消化することが難しい！ しかし、新しい人を疎外しているわけではありません。大きな流れか小さな流れの変化かはわかりませんが。
- また、条例ができ、それを実行できるようにするため、NPO法人化していくことは大切です。しかし、少し自信がありません。
- ・新しいメンバーに入ってほしい。他の分科会のプロジェクトにも参加したい。身軽に動くことができる。
- ・これまでの流れからしてそうなる。  
各分科会からのプロジェクトを整理する（共通テーマ、ある程度の活動幅などで。平成15・16・17・18...年に取り上げる区分け）。再分類されたプロジェクトで再度、分科会を組む。  
その分科会活動で実行計画を練る。併せて、条例に入れたらよいことを抽出する。
- ・確実な実行に向けて進めていくことで、より専門的な話が可能となる。他の分科会のプロジェクトが今一度確認できる（融合）。
- ・プロジェクトはいろいろ関心がありますが、体力・時間を考えると、たくさんの参加は出来ないと思います。
- ・いや普通に考えて、プロジェクトごとに分けなきゃ無理でしょ。分科会の人間関係がすぐに消滅するわけじゃあるまいし。分科会消滅ってイメージがインパクトが強くて抵抗があっただけで。なんとなくプロジェクトによる組み分けに移行しちゃえばいいじゃん。
- ・市民が新しく入るときに入りやすそうだから。分科会の詳しいことはわからないけど、既存の分科会のままでなく、事務局案としてお話していた全体会でいう方法がいいと思う。分科会として継続していくメリットが、全体会でも十分持つことができる。
- ・一度、33のプロジェクトを整理する機会が必要と考えていたので、良いタイミングと思うから。また、他の分科会に意見ではなくて、皆さんの客観的評価を得る（受ける）ことが出来るから。
- ・中途に入ったメンバーには、プロジェクトの方が加わりやすいと思います。やりたいことに手をあげた方が、自分が納得してやることができるのでは...
- ・残すところ一年で、すべてが終わります。時間を考えると、プロジェクト方式で、絞って策定するのが一番良いと思います。
- ・分科会の役割・存在も全体会の中で反映できそうなので。
- ・自発的“強い思い”に活動できると考えるから。
- ・気分一新。
- ・今の分科会がいやという訳ではありませんが、選択権なしに分科会に配属された職員としては、他の分科会で提案されたプロジェクトにも首をつっこんでみたいなあと思ってます。  
現在の分科会方式では、他の分科会から出された意見を柔軟に受容できる状態ではないように思います。「どうせ意見があるなら一緒にやろうや！」てな感じでプロジェクトチームを作っていけばいいんじゃないでしょうか。
- 折衷式で中途半端に分科会を残されると、分科会に後ろ髪を引かれるような感じになって、プロジェクトに専念できなくなってしまう気がします。ズバリ分科会という形は一度解体するのがいいと思います。
- ・新しい考えや活動目標が明確になる。

## 重点プロジェクト方式がイヤな理由

- ・思い入れの強い人ばかりで計画や目標を作っても、興味や関心のない人が実行できるような目標にならないような気がする。+人数が少なすぎる。
- でも、どちらもあまりメンバーは変わらないような気になってきた...
- ・考えや意見の統一に時間を要する。メンバーが少なくなると、時間調整が難しくなる。責任が重くなる分、達成が難しくなる。
- ・プロジェクトメンバーの能力に左右されやすい(視角の細分化の危惧)。プロジェクトプランそのもののイメージがまだわからない(分科会自身が力をUPさせていけば良いのではないか?)。
- ・公私の関係で、出席できない場合に心配が募る。
- ・また一からやり直しになるので、考えられていた最初の意図と違って来るかも知れない。たぶん分科会の人の方がまたやることになるので、そんなにこだわらないですが...
- ・プロジェクト方式だと、もう一度、一からやるような気もする。新規加入メンバーの扉を開くのなら、訳ありの後退の扉も作っておく必要があるのでは...

## 折衷方式がいい理由

- ・(プロジェクト方式寄りの)折衷方式がいいのではないかと思います。分科会を解体したくないです。個人的な思いです。今まで作りあげてきた関係を大事にし、新しい関係をつくっていければ、全体会で分科会のふりかえりができるといっても、プロジェクトは1年で終わるものではない。全体会というものをずっと続けていければ、分科会のような形を残して、プロジェクト方式で補えない部分を補えるのではないかと考えています。もちろん、NPO法人の話もありますので、その中で、分科会のようなチームをつくっていく話なども出るかなとも考えています。
- 強く反対しているという理由はないので、イヤな理由はありません。
- ・プロジェクト方式で集まって、同時に実行出来るプロジェクトは一緒にグループを作る。出席の回数が減って、日程の都合が付きやすい。人数的に増える。アイデアが増える。
- ・分科会方式とプロジェクト方式の双方のメリットを生かすことが可能と考えられるため。また、プロジェクトのテーマによっては、複数の分科会が合同する必要がある。分科会が事務局の働きをし、プロジェクトは実行部隊的な働きをする方がより有効的。他の市民グループを取り込みやすい。
- ・プロジェクト中心のスタイルで進め、時々、分科会にフィールドバックすることを考えた。従来のような回数を開くことはないが、全体会では方向を定めにくい場合も想定されるので(時間不足等で十分な討議が出来ない。上すべりの議論で先へ進んでしまうデメリットが予想される)。
- ・プロジェクトには、分科会固有のものと横断的なものが有ると思う。固有のものは、プロジェクト方式としても、結局、分科会のメンバーが集まるのでは? 固有のものは分科会プラス新人・有志で、横断的なものは分科会プラス分科会プラス新人・有志でやれないでしょうか?

- ・ 短期的な目標であれば、分科会単位で充分立案できるはず。これを基に、担当課とNPOで進行管理ができる。(分科会が永久でないため)  
長期的なプロジェクトもあり、シール選択の中で消えてなくなる可能性大。これは、プロジェクトチームで進行管理する必要あり。
- 33 プロジェクトに戦力分散の恐れが大。プロジェクトは数個くらいが望ましい。

### 折衷方式がイヤな理由

- ・ 折衷案は、双方のメリットが生かされない。
- ・ 中途半端。

### その他の意見

- ・ **どっちでもいいはナシですか？** やりたいことをやりたい人が進めることが基本だと思う。そういう意味では、プロジェクトありきという方がしっくりきます。  
でも、分科会の雰囲気・自由さ、大好きだし、分科会が解体されるのは淋しすぎる。また、分科会の自由なゆったり感を新体制でも作れるかということ考えると不安…。よくわかりません。
- ・ 基本的には、好きなことに、気軽に参加できる方法であれば、**どちらでもよい!**
- ・ **運営委員会及び事務局で決める。**  
やはり、各自の意見を聞いていてもなかなか決まらない。今回、プロジェクトの話をしたということは、プロジェクト方式で進めていく方向であったのでは。